

ハート みんなで考えたい保育事例 ♡ ファイル

～児童虐待・不適切な対応について自身を振り返るために～



制 作 京都府保育士会

指導助言 山川宏和

(京都華頂大学准教授)

目 次

はじめに	1
事例 NO.1 「ちゃんと座って食べなさい！」	2
事例 NO.2 「どんまい！どんまい！」	4
事例 NO.3 「積み木を倒してしまった」	6
事例 NO.4 「先生と一緒に行こうね」	8
事例 NO.5 「早く！並んで！！」	10
事例 NO.6 「こ・こ・こわい・・・」	12
事例 NO.7 「早くお部屋に入っておいで」	14
事例 NO.8 「園庭へはトイレに行ってから」	16
事例 NO.9 「先生、あっちに行って」	18
事例 NO.10 「着替えを早くしてね」	20
事例 NO.11 「おしっこが出てもすぐに言えないの？」	22
事例 NO.12 「これも食べんとご飯食べられんよ」	24
事例 NO.13 「リズムあそび」	26
事例 NO.14 「おかわりしていいよ」	28
事例 NO.15 「小さい子を押したらあかんやん！」	30
事例 NO.16 「虫博士」	32
事例 NO.17 「偏食の強いA児」	34
事例 NO.18 「新学期」	36

はじめに

英語で児童虐待をさす Child Abuse は、Ab(＝離れた、はずれた)use(使い方)、つまり本来の姿からはずれた子育て、濫用という意味です。しかし、日本語の虐待は、殴る蹴るなど苛烈な暴力というイメージがあり、保護者からすれば、「そんなひどい暴力はしてない！」と否認することもしばしばです。さらに、日本では、虐待にネグレクトを含みますが、諸外国では、してはいけないことをする Abuse と、しなければならないことをしない Neglect を区別して、Child Abuse & Neglect と表記することもあります。そして、家庭内に限らず、子どもへの不適切なかかわりを総称して、Child Maltreatment(マルトリートメント・Mal は Bad とか Wrong の意味)といいます。

厚生労働省は、このマルトリートメントの概念を導入しようと、1999 年に次のように定義づけました。大人やおよそ 15 歳以上の子どもによる、18 歳未満の子どもに対する身体的暴力、不当な扱い、明らかに不適切な養育、事故防止への配慮の欠如、ことばによる脅かし、性的行為の強要などによって、子どもが苦痛を受けたり、明らかな心身の問題が生じたりしている状態というものです。先に述べたように、ここには、家庭以外の、教師による体罰やいじめの黙認・助長、スポーツ指導者によるハラスメント、きょうだい間の暴力、売春など幅広い子どもへの権利侵害が含まれます。本書でいう虐待も、暴力のみならず、子どもの権利を侵害するあらゆる大人の行為を指しています。

保育者は、「一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努め」(保育士倫理綱領)る権利擁護の担い手です。暴力を主とした虐待のイメージに囚われず、日ごろの実践を振り返って、「子どものためになっているかな？」と考え、職員同士でコミュニケーションを取っていただくことが、本書の目的です。他の保育者の視点を知り、行動の背景を知り、最善の利益を第一に考えるとは何か話し合い、専門性の向上につなげていただければ何よりです。

子どもたちが困ったり立ち止まったりしたときには皆さんがいます。皆さんが困ったり立ち止まったりした時には、ともに助け合う同僚がいます。「それはあかんわ」ではなく、「それいいね」と共感しあえる研修の一助になれば望外の喜びです。また、このような貴重な機会を与えていただきました京都府保育協会や事例の提供をしていただいた園の皆様、またそこですくすくと育つ子どもたちには言い尽くせぬ感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて衷心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

助言者として 京都華頂大学 現代家政学部 山川宏和

事例 NO.1 「ちゃんと座って食べなさい！」

午前中、リレーで負けて悔しがっていた4歳のA児。
給食の時間もまだ、ブルーな気持ちを引きずっていた。
特に、今日は苦手な豆ごはん。
豆だけよけようと思ったが、ごはんにも豆の香りがついていて、
箸が進まない。

おかずは食べたけれど、ごはんはそのまま。
食べ終わった友だちは、「ごちそうさま」をして、
次々に遊びに行ってしまった。

ごはんは、だんだんコペコペになってきた。
A児は、ますますブルーになって、床に寝転び始めた。

先生はその姿を見て、
「ちゃんと座って食べなさい！全部食べないと遊びにいきませんよ！」
と厳しい口調で言った。

A児は、床の上で「うわー」と泣きだしてしまった。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 子どもの気持ちを受け止めたかわりにはどのようなものがあるでしょうか？ ② 望ましくない行動を望ましい行動に導くためには何が必要でしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 2 「どんまい！どんまい！」

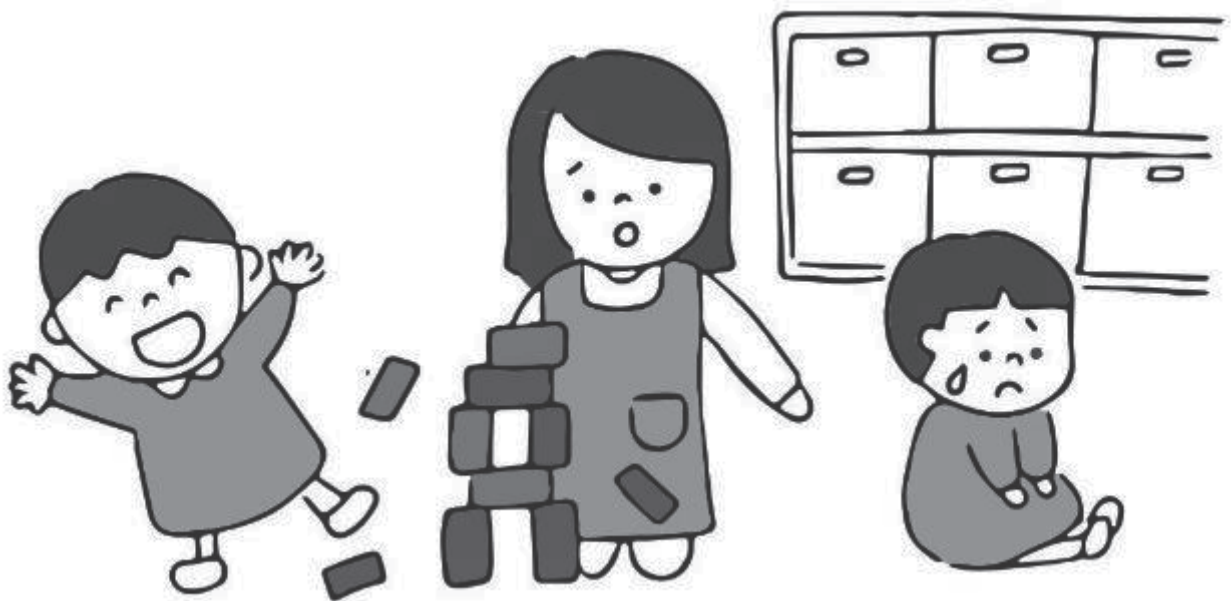
先日、小学校の個人懇談会があって、担任の先生から
「A君はとてもやさしいです。
友だちが失敗しても、いつも『どんまい！どんまい！』
と言って励ましてくれるんです。」
と言われたA児。
園の担任だったB先生は、子どもたちの失敗を絶対にとがめず
いつも「どんまい！どんまい！」と言っていた。
そのため、A児は友だちの失敗を責めることなく
「どんまい！どんまい！」と声をかけるようになっていた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 望ましくない行動をとる児童にも「どんまい！」と声をかけることはできるでしょうか？ ② 複数担任で意見が違う場合には、どのような対応が考えられるでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 3 「積み木を倒してしまった」

2歳児の保育室で、A児が積み木を積んでいた。
そこにB児がやってきて、「がちゃーん」と倒してしまい、
A児は、驚いて泣いてしまった。
担任のC先生は、2人の間に入って、A児には
「高く積んでたのにねー。たおれちゃったね。もう1回作ってみようか。」
と言うが再び作ろうとはしない。
B児は、壊れたことが楽しいのか、笑顔であった。
そこで、「もう1回積んであげるから。」と言って積み木を高く積むと
B児は嬉しそうに、積み木を再び壊して遊び始めた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 積み木を壊されたA児には、どのような声掛けが考えられるでしょうか？ ② 積み木を壊してしまったB児の行動を前向きにとらえるとしたら、どのようなことが考えられるでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 4 「先生と一緒にいこうね」

3歳が園外保育で自然公園に行った。

D児は、チャレンジ精神旺盛で、木の根がむき出しになったがけをよじ登ったり、初めての芝生を誰よりも先に走って行ってしまったくらいするほど元気な子どもである。

「先生の声が聞こえて、先生が見えるところで遊んでね」と約束して遊び始め、お弁当の時間になったので

「お弁当たべよう！みんなおいで～」

と、子どもたちに声をかけた。

ところが、D児は、お弁当を食べる場所に集まってくる気配はなく、反対を向いて山の小径に入っていく。

担任は、追いかけていって、D児に

「先生から見えなくなるところに行ったらダメって言ったよね」と声をかけた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 最初に行った保育士の指示は、別の表現が考えられるでしょうか？ ② D児の気持ちを受け止めた声掛けにはどのようなものがあるでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 5 「早く！並んで！！」

運動会を間近にひかえたりハーサルの日。
入場門のところで出番を待つ4歳児クラス。
時間が押しぎみで、担任も少し慌てた様子。
早く並ばせたい担任と、はしゃいでなかなか並ばない子どもたち。
「早く並ぼうね」の担任の声も、だんだんと大きくなってきた。
追い打ちをかけるように主任保育士が
「〇〇組さあ～ん！準備できましたかあ～??」
と声をかける。

決められた順番通りに並べているか最終確認をしていた担任は
違う場所にいる子どもたちを
「Aはこっちでしょ！」とA児の腕を持って自分の方に引き寄せたり、
「Bはあっち！！」とB児の体を押して自分の後ろに押しやったりし、
「だから早く並んで！！」と大声を出したりしている。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① なぜ、早く並ばせたいと思う気持ちになるのでしょうか？ ② 並ぶ順番を決めるときに考慮しなければならないのはどんなことでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 6 「こ・こ・こわい・・・」

プレイルームで子どもたちが大型積木を使って家を作っていた。

その横を友だちと追いかけてっこをしていた 5 歳の A 児。

「そこでお友だちがお家を作っているから、気をつけてあげてね」と保育者が声をかけた。

他の子どもはその場を離れ、積木の家の様子を気にしながら遊び始めたが、A 児は気にする様子はなく、結局、積木に当たり壊してしまう。壊された友だちが大泣きしたため、A 児も驚き困った様子。

声をかけた保育者が A 児の前に立ち、「だから言ったのに！！！」と注意を始めた。

目の前に保育者に立たれた A 児は、直立で保育者の顔（ほぼ真上）を見上げじっと話を聞いていた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 最初の声掛けに改善すべきところはあるでしょうか？ ② 5歳のA児は、なぜ周りで遊び続けたのでしょうか？ ③ このあとA児には、どのようなかかわりが必要なののでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 7 「早くお部屋に入っおいで」

園に連絡がないまま、朝、登園が遅くなることが多い3歳のA児。保護者はA児を連れて登園したが、あわただしく担任と挨拶を交わしA児にも「バイバイ」と声をかけて急ぎ足で園を出た。

A児はすこし茫然とした様子で、下駄箱の前で靴を履き替えないまま玄関近くにある保育室の様子をじっと見ていた。

そこはA児のクラスで、既にクラス活動が始まり、友だちが楽しく遊んでいる。

担任は、なかなか保育室に入っこないA児を見て、「何しているの?!」「早く入っおいで」と強い口調で保育室に誘った。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① なぜ、保育者に連絡なく登園が遅れるのでしょうか？ ② 登園時のA児の気持ちはどのようなものでしょうか？ ③ 強い口調で誘う保育者の気持ちはどのようなものでしょうか？
演習後の感想	

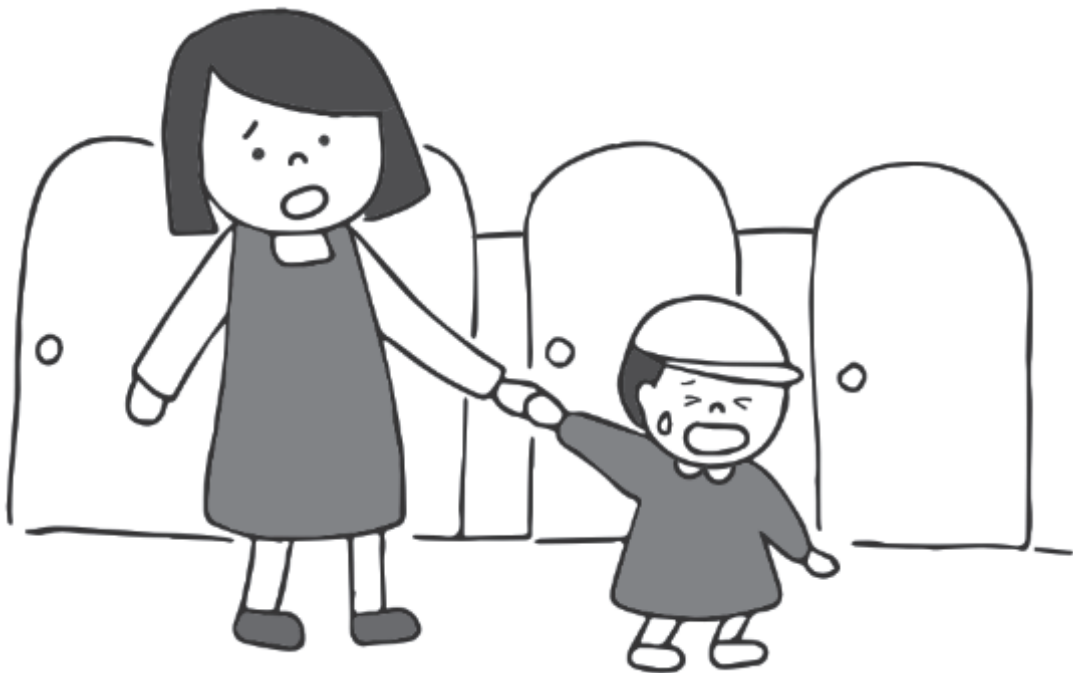
事例 NO. 8 「園庭へはトイレに行ってから」

その日、保育者は定時に帰らなければならない私用があった。
担当クラスの1歳のA児が、トイレトレーニングの時期であったため
園庭での遊びの前に排泄を済ませようと声をかけた。

いつものように「おしっこ行こうか」と誘ったが、その日は
「（おしっこはしたく）ない」と言い、トイレに行かないA児。
A児は行きたくないとの意思表示をしていたが、保育者は、何度も
トイレに誘い、園庭での遊びを待たせる状態となっていた。

A児は外に出たいのに出られないことで、更にかたくなにトイレに行
くことを拒絶し、「いやいや」と言いながら泣き出した。

「いやいやじゃなくて、トイレに行かないとあかんやろ」と声をかけた
が泣くばかりであった。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① その日の保育者の精神状態はどのようなものだったでしょうか？ ② なぜ、保育者は何度もトイレに行かせようとしたのでしょうか？ ③ どのような声掛けをするべきだったのでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 9 「先生、あっちに行って」

2歳のA児は気持ちの切り替えが難しく、自分の思いと違うことが起こると、泣いてしまうことがある。保育者が抱っこをしてなだめようとするが、嫌がって泣き、受け入れようとしない。

その日は機嫌が悪く、自分で給食袋を鞆に片付けようとするが、鞆の中はいっぱいでうまく入らず何とかして入れようとしていた。保育者が手伝おうとA児の側に寄ると、「あっちに行って」と怒る。

保育者が「じゃあ行こう。鬼が来るよ」と言って、隣の部屋の電気を消した。A児は大きな声で泣き叫んでいた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 不適切な保育があるとしたらどのような点でしょうか？ ② A児を落ち着かせるためには、どのような方法があるでしょうか？ ③ 自分の思いと違うことが起こると泣いてしまうのは発達の上で、どのようなことが考えられますか？
演習後の感想	

事例 NO. 10 「着替えを早くしてね」

プール遊びの時は、前日に3．4．5才児の担任がクラスの入る時間を決めていた。

当日になってプールに入る3才児の人数が少なかったのでクラスごとではなく3・4才で一緒に入るようになった。

4才児のクラス担任は、直前に予定時間が変更になったことを知り、プールの準備をする。

着替えの遅い子どもに

「最初にプールやからはよして」

「遅いなあ、なにしてんの」などの言葉掛けや関わりを行い、子どもが泣いてしまった。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① こうしたことが起こる背景には何があるでしょうか？ ② 別の声掛けがあるとしたら、どのようなものがあるのでしょうか？ ③ こうした連携ミスがおこらないようにするにはどうしたらいいのでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 11 「おしっこが出てもすぐに言えないの？」

4歳のA児。ほとんど毎日のように午睡時「おねしょ」をする。午睡の途中で「おねしょ」と共に目覚めることもよくあるが、すぐには言い出せず、布団の中でじっと過ごすこともある。

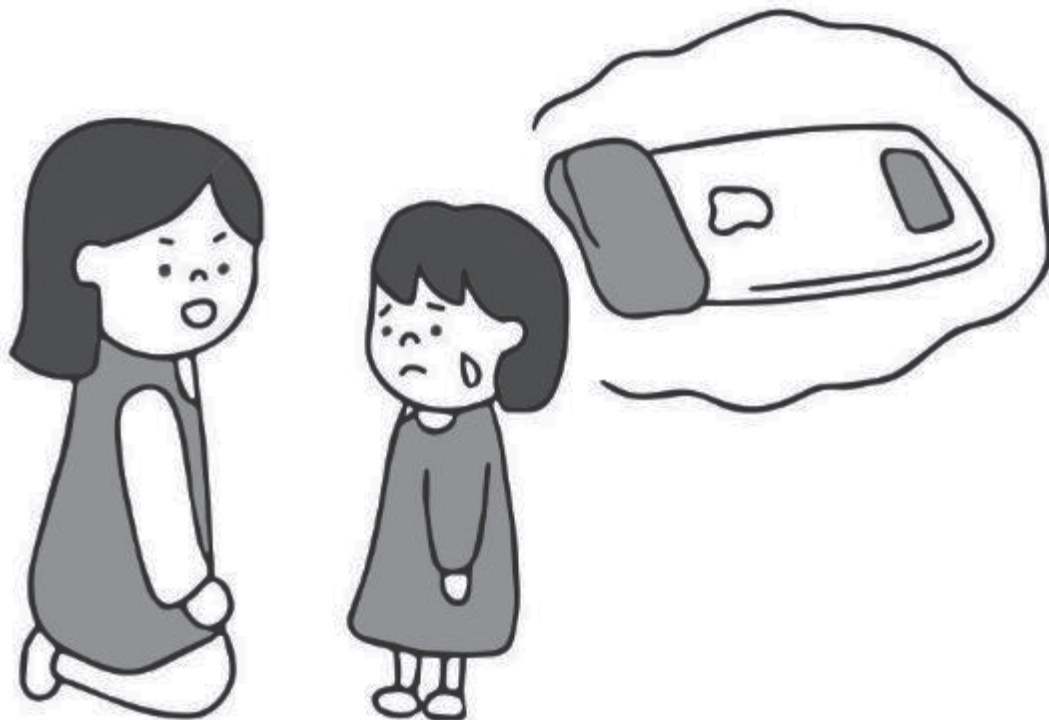
午睡が終わり、お布団を片付ける時に先生に「おしっこが出た」と泣いて伝えたA児に担任の先生は「ちょっとこっちに来て」とA児を別室に連れて行き、

「なあ、Aちゃん、

なんでおしっこ出たときに言ってくれへんかったん？

すぐ言ってくれたらすぐに着替えさせてあげられるし、

お布団も臭くならへんし、出たときに言うようにしてな」と伝えた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① すぐには言い出せないA児の心情はどのようなものでしょうか？ ② 先生が伝えたかったことは何でしょうか？ ③ A児はなぜ泣いていたのでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 12 「これも食べんとご飯食べられんよ」

2歳のA児は白いご飯が大好き。

給食の時間、ご飯ばかりを食べておかずが残ってしまうので、保育者が「おかずも食べよ」と声をかけた。

A児は「ごはんがいい」とおかずを口にしない。

保育者は「これも食べんとご飯食べられんよ」と声をかけ、おかずを口に入れると、少しずつ食べ始めるが、おかずが口の中に残り、なかなか飲み込めない。

A児に対して「吐いたらあかんよ」「お茶と一緒に飲み込んで」という保育者。

その言葉に無表情になったA児は、結局、おかずを吐き出してしまった。



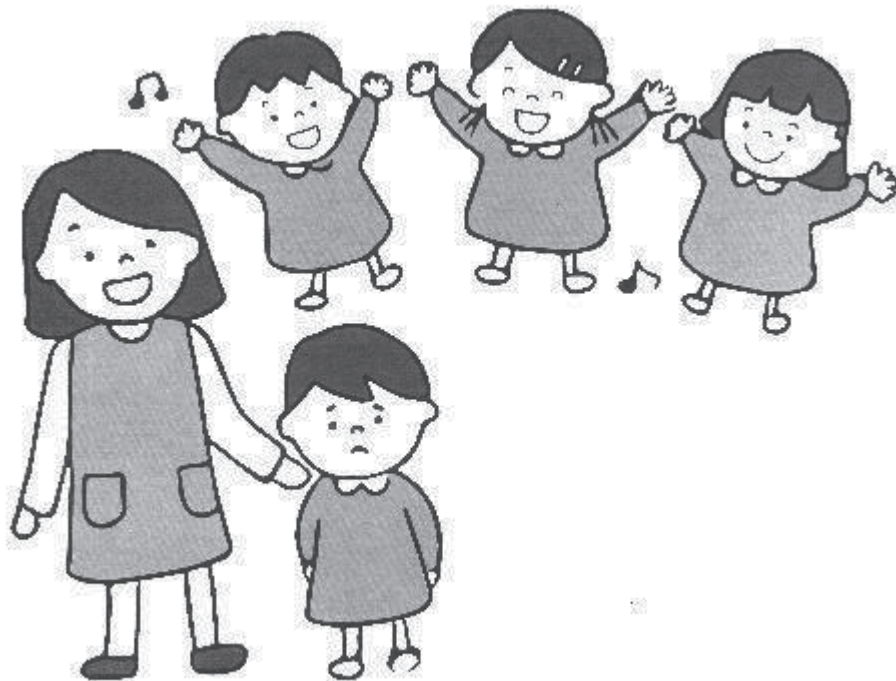
保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① A児の家庭での食事はどのようなものでしょうか？ ② 保育者の「おかずも食べてほしい」という願いはどのように達成すべきものでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 13 「リズムあそび」

A児はリズムあそびが、あまり好きではなく、みんなと一緒にしようとしな。一方、B児は、リズムあそびが大好きで、ニコニコ笑いながらリズムに合わせて身体を動かしている。

保育者はクラスの子どもたちに、「Bちゃん楽しそうに、お顔もにこにこしているね」「みんなでBちゃんのまねっこしてみよう」と誘った。A児は、B児から少し離れたところで見守っていた。

保育者は、A児に「どうしたの？Bちゃんみたいにやってみたら？」と声をかけたが、A児は気が進まない様子である。さらに保育者は「Bちゃん、かっこいいね。Aちゃんも教えてもらおう？」と声をかけた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 子どもたちに同じあそびを同じように楽しませようという思いはどこから来るのでしょうか？ ② 気が進まないことをやりたくないというサインを見逃さず気持ちに配慮するためにはどうしたらいいのでしょうか。 ③ 「Bちゃんみたいに・・・」という表現は、A児にはどのように受け取られるのでしょうか。 ④ 興味があるのにやる気（きっかけ）がない子との違いは何でしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 14 「おかわりしていいよ」

3歳のA児、普段からおとなしく、あまり大きな声を出して話したりはしないが、気の合う友だちと二人になると、よくしゃべり、表情も豊かになる。大勢の中にいると、あまり目立たない存在だ。

卵アレルギーがあり、除去食の時は、みんなと違う席につき、食事する。咀嚼力が弱く、食べる時間はかかるが、黙々と食べている。時に好きなメニューがあると、おかわりをしようと黙々と食べるが、完食しないとおかわりができないとっていて、苦手なものも食べようとして時間がかかり、おかわりができないことが殆どである。

「おかわりしたかったら、取りに来ていいよ」と声をかけても諦めてしまう。そういわれると、ますます苦手なものを食べようとして、クラスの中で最後まで完食できないことがある。



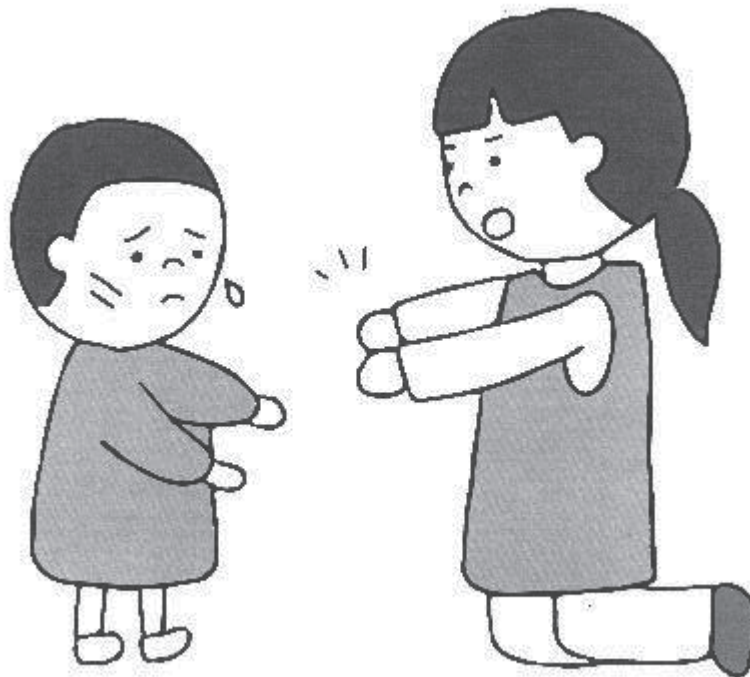
保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演 習 の ポ イ ン ト	① なぜ、完食しないとおかわりできないと思っているのでしょうか？ ② 自分で決めた量を完食するという体験を積み重ねるにはどうしたらよいのでしょうか？ ③ 保育者の声かけには、他にどのようなものが考えられるのでしょうか？
演 習 後 の 感 想	

事例 NO. 15 「小さい子を押したらあかんやん！」

普段は、同年齢のクラスで生活しているが、定員60名の園なので、異年齢で過ごすことが多い。そのため、自然と大きい子は小さい子の面倒を見ており、小さい子は大きい子へのあこがれをもちつつ、真似をしながらすごしている。

4歳児A児は、0歳児の時から年上の子とふれあいながら園生活を積み重ねてきた。また、保育者の姿を見て、保育者の手伝いを喜んでしている。中でも、0歳児のB児の面倒をよく見ているが、ある時、B児を押して泣かせていた。

「小さい子を押したらあかんやん！」と注意をしたが、腑に落ちない様子でボロボロ涙を流した。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① あなたなら、A児になんと言っていたと思いますか？ ② なぜ、普段はお世話していたA児が、B児を突き飛ばしてしまったのでしょうか？ ③ 腑に落ちない様子で泣いてしまった後に、どのような声かけをするとよいのでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 16 「虫博士」

5歳のA児。友達の中へはいりづらく、一人で遊んでいることが多い。虫が大好きで、図鑑を見ながら虫の絵を描いたり、粘土で昆虫を上手に作ったりしていて、大変詳しく、家で捕まえた虫を保育園にもよく持ってきていた。

ある日、近くの公園に散歩に出かけた時、子どもたちが虫を発見！でも、なかなか捕まえることができず四苦八苦・・・保育者に助けを求めてきた。A児がそばで様子を伺っていることに気づいた保育者は「先生もムリやわ。誰か助けて！！！」とA児をみた。すると、A児がさっとやってきて、みんなの前であっさりと虫を捕まえて見せた。

「さすがA君。虫大好きやし、捕まえるのも得意やもんね！」と保育者。「A君すごいな～！」「Aこわくないの？」と子どもたち。「これ〇〇っていう虫やで！」「怖くなんかないで！」と、ちょっぴり照れながらも得意顔のA児。

園に戻ってからも、その虫とA児を囲んで話が盛り上がったり、一緒に図鑑を見たり、絵を描いたりして遊ぶ姿が見られた。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演 習 の ポ イ ン ト	① これまで保育者は、A児の昆虫好きをどのように反応したり、クラスの中で紹介していたのでしょうか？ ② A児の自己肯定感を高めることができるような言葉かけにはどんなことが考えられるのでしょうか。 ③ 助けを求めることができるのも必要な要素ですが、そのほかに、こうした場面で保育者に求められる要素は何でしょうか。
演 習 後 の 感 想	

事例 NO. 17 「偏食の強いA児」

1歳児 15人のクラスで担任は3人。内訳は、キャリア20年のリーダー保育士Bとベテラン嘱託保育士C、3年目の保育士D。

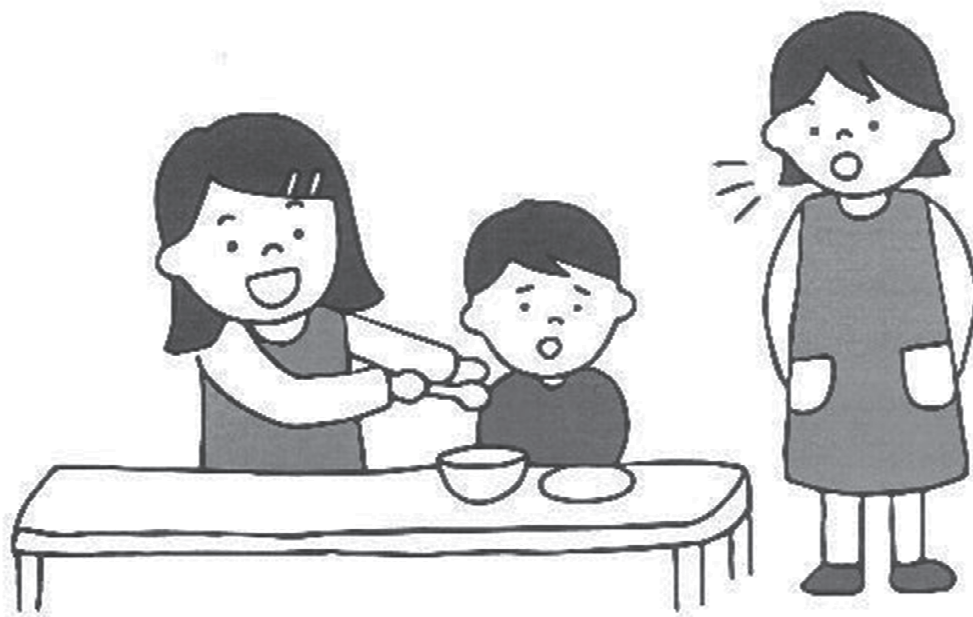
担当制で保育をしているが、子どももすっかり慣れてきて、どの先生でも抵抗なく甘えられるようになってきた。

偏食の強いA児は、普段は担当のC先生と食べているが、C先生はA児が嫌がると「はいはい、もういいな。」と皿を下げる。

B先生は、もう少し食べられるようにしたいと考えていた。

ある時、A児がB先生と一緒に食べるようになった。B先生は嫌なものも好きなものに混ぜてA児の口まで持っていき、「食べられるな～おいしいな～」と促すと、A児は口を開けて食べた。ただ、それを繰り返すうちに、A児は自分の顔を手で覆い、そむけるようにしながら食べている様子があった。

C先生は「そんな風に食べさせるのがいいんですね！」と少し強い口調でB先生に言った。



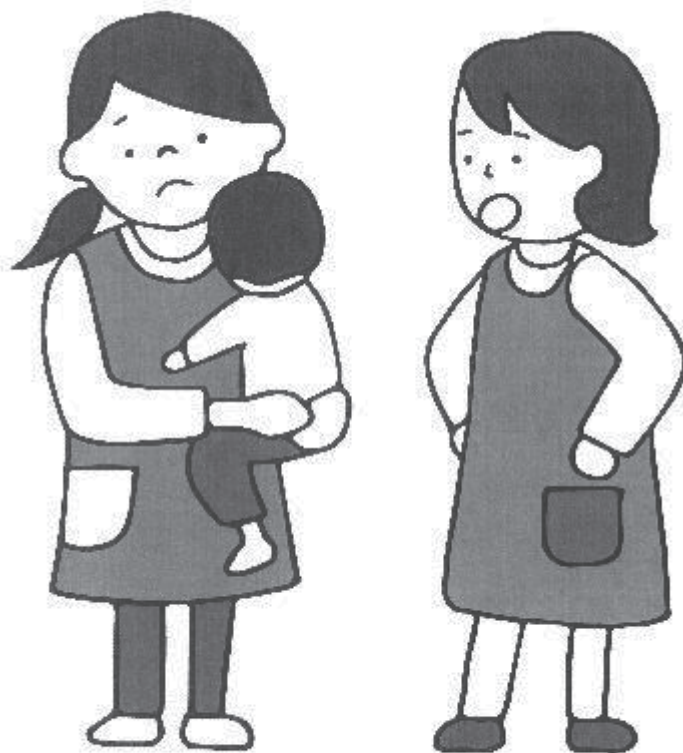
保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 食べさせたいというB先生と、食事を楽しいものとして食べたくないものは食べなくていいというC先生の思いは、どう調整したらよいのでしょうか？ ② 食べたくないというA児の意思表示を、保育者としてどうかかわるべきでしょうか？ ③ 「そんな風に食べさせるのがいいんですね！」というC先生の真意はどのようなものでしょうか？
演習後の感想	

事例 NO. 18 「新学期」

新学期が始まって保育園は入園したばかりの子どもたちが泣きの大合唱。補助の先生や看護師も入って手伝うが、リーダーのA先生は「あまり抱っこすると癖がつく」と嫌がった。

2年目のB先生がどうしてもかわからずうろうろしていると「泣いている子を散歩車に乗せて散歩に行ってくれる？」と言われた。看護師の先生と一緒にいった。C先生が、散歩の途中、泣きじゃくる子を抱っこすると、C先生の肩でスースーと寝入った。

すると、A先生が「寝る時はちゃんと布団で寝る癖をつけないと、その子は抱っこでしか寝ない子になってしまうんです」とC先生に言った。



保 育 事 例 に 対 す る 感 想	
演習のポイント	① 抱っこ癖がつくという旧習と、なるべく抱っこしようという現在の方法の食い違いをB先生にどのように伝えるべきでしょうか。 ② 眠りたいときに眠るという子どもの欲求は、どのように実現されるべきでしょうか。 ③ 「癖がつく」という表現に込められたA先生の保育の特徴とは何でしょうか。
演習後の感想	

実践事例🍀ファイル

～児童虐待・不適切な対応について自分自身を振り返るために～

令和2年10月27日

制 作

京都府保育士会

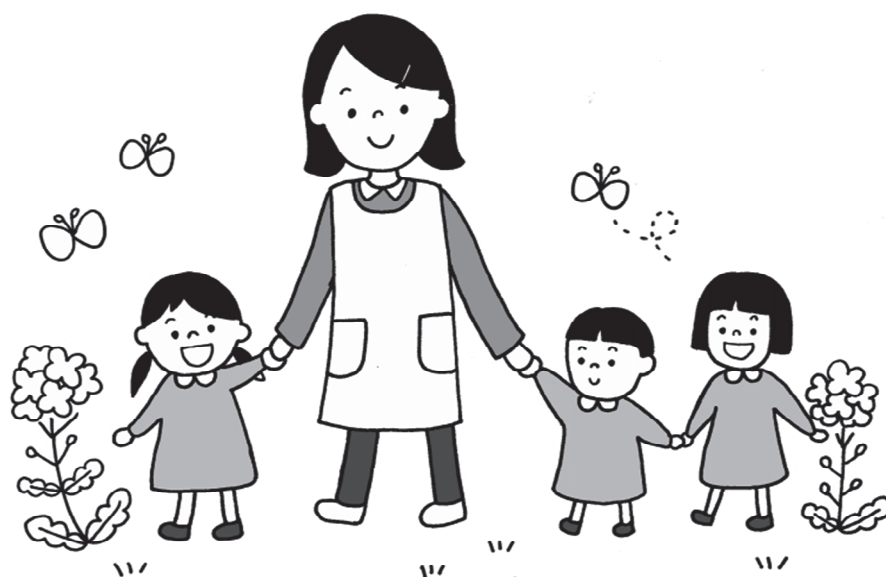
- 笠置 英恵 (今里こども園)
- 中田 純子 (ひいらぎこども園)
- 橘 信子 (大井こども園)
- 仲西 典代 (たんぽぽ保育園)
- 村田 陽子 (さくらこども園)
- 塩見 道代 (上川口保育園)
- 山本 未智 (千代川こども園)
- 金築 えり (海印寺こども園)
- 南 美樹 (伊勢田こども園)
- 山本 智子 (認定こども園松井ヶ丘保育園)
- 山口 沙織 (チャイルドルームヒナ)

指導助言

山川 宏和 (京都華頂大学 現代家政学部 准教授)

カット

諸井 まり (京都芸術大学芸術学部こども芸術学科3年生)



園名

名前